

2023年第3回定例会

総合福祉センターについて「検討会」による協議の継続を求める陳情 採択を求める討論

◆ 陳情第13号 総合福祉センターについて「検討会」による協議の継続を求める陳情に対して、生活者ネットワークは採択を求めます。

地域共生社会の充実を旗印に掲げつつ、福祉の拠点を市の中心から移転するという総合福祉センター移転は、大きな夢と課題の両面を合わせ持っています。そのため、市が目指す福祉の像や地域共生社会像を市民に示しつつ、関わる市民が相互理解を深めるプロセスを踏むことができる、そういった場を設置することが今後も重要です。

検討会の最終回には、検討会を振り返るとベストではない、アクセシビリティの問題が悩みだ、フロント機能もこれからの見通しが分からないので不安だというお声、また、新しいセンターのゾーニングはまとまったが、それ以外の要望の実現への道筋が不明瞭、これで検討会の機能を果たせたのかという疑問も聞かれました。

検討会の目的は果たされたとの市の認識が委員会で示されていましたが、こういった委員のお声は、そもそも検討会の目的が委員の皆さんと共有できていなかったことや、検討会が市民が求める議論がされる場となっていなかったことを示しており、行政が答弁で示した認識は委員とは共有されていないと考えます。

最大の課題の1つであった京王多摩川駅舎のバリアフリー化は、主にバリアフリー推進協議会で取り扱われたため、協議会で結論が出るまで、センター移転の検討会での具体的な説明は保留とされました。こういった縦割り行政の事情が委員の不安の原因となっていた側面もあります。

先日、一般質問への市長の答弁でアクセシビリティを確保するとの前向きな姿勢が示されました。このことも改めて委員の皆さんと共有し、市との信頼関係を回復した上で、まだ解決していない課題についても建設的な議論を重ねるべきです。

検討会を傍聴していると、利用者と一緒に言っても特性は様々で、必要な配慮が時にほかの特性の人にとってはバリアとなることがある、そういったことが分かります。視覚障害者には必要な点字ブロックが、車椅子の方にはバリアとなることもあります。シャトルバスのバス停は駅近にあることが理想だと言う方もいますが、人混みが苦手な特性があるお子さんは人通りの少ない場所が理想だとのことでした。

現在、市はこうした多様な要望を一手に引き受けて処理しようとしており、今後も個別に対応すると言っています。しかし、地域共生社会づくりには、立場の異なる市民同士が

要望や意見をオープンに出し合って相互理解を深め、一緒に解決策を考えるプロセスが欠かせないと考えるため、検討会の継続を求める本陳情の採択を求めるものです。

以上です。